

令和5年度 学校法人いわお学園理容美容専門学校西日本ヘアメイクカレッジ 学校自己評価及び学校関係者評価表/令和6年3月18日 学校関係者評価委員会

評価基準 適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや適切・・・2、不適切・・・1

項目	評価の項目	評価	自己評価委員会評価コメント	学校関係者評価委員会の提言	今後の改善策
I 教育理念 教育目標 人材育成像	1 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。	4	学年会議、管理職会議で学校長より定められた『理念・目的・育成人材像』について共有されている。	パンフレットには理念や教育目標にも触れ、学生・保護者に伝えるための努力を感じた。 少子化によりこれまで以上に学校の特色を明確にさせることが必要である。評価項目の2、3については特に意識して取り組んでほしい。	学校の理念・目的をよりわかり易く、募集パンフレットに掲載したり、学校と生徒・保護者との連絡時に使用するさくら連絡網も活用し折にふれ理念・目的が目につくように情報を発信していきたい。
	2 学校における職業教育の特色は何か定められているか。	4	国家試験合格のための訓練だけではなく職業教育として第一線で活躍する講師から即戦力に繋がる技術を指導してもらっている。		
	3 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来像を抱いているか。	4	働き方改革により従来の徒弟制度が崩壊しつつある理美容業界に対し卒業後も学べる場所が提供できる制度を構築している。		
	4 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構造などが学生・保護者等に周知されているか。	4	オープンキャンパスの時点から入学可否にかかわらず職員より学校の理念・目的・特色をお伝えしている。		
	5 各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4			
II 学校運営	1 目的等に沿った運営方針が策定されているか。	4	事業計画策定会議を開催し参加者で内容を議論した後、策定をおこなう。策定後は毎月の会議で進捗状況の点検を行い状況を各部署のリーダーに報告し、リーダーより各部署のメンバーに下ろす体制にしている。	コロナ禍以降、Zoomや小人数での会議が浸透しつつあるが、会議終了後の議事録への記載漏れが散見される。会議を行う際には議事録に残すことも徹底してほしい。 就業規則は第3者からの意見も反映してほしい コンプライアンスについては、引き続き強化をお願いする。	小人数ごとの報告体制により各教職員に進捗状況をきっちりと報告することができている。議事録も役割を決め作成していく。 社会保険労務士等にも相談しながら、諸規程及び組織の見直し・整備を進めていく。 学籍管理システムの有効活用、ワークフローを使った経費申請などシステムを使った業務を浸透させることにより効率化と見える化を引き続き推奨してもらいたい。
	2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4			
	3 人事・給与に関する規定等は整備されているか。	4	就業規則、給与規程の見直しをおこない社会情勢に応じた規程に改訂することができた。		
	4 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	4	各部署での課題が共有できる場として月2回運営会議を開催し課題解決にむけて取り組んでいる。		
	5 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	4	個人情報の取り扱い情報漏えいには細心の注意を払い取組み強化をおこなっている。		
	6 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	3	『全専各』『大専各』からの講演、研修情報の発信をおこなっているが業務の関係でなかなか参加できていない状況である。		
	7 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	書類のペーパーレス保存の推奨、学籍管理システムの改修をおこない業務の効率化をはかった。		

項目	評価の項目	評価	自己評価委員会評価コメント	学校関係者評価委員会の提言	今後の改善策
Ⅲ 教育活動	1 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4	『手に技を心に力を』当校の理念に基づき稼げるプロの育成を目指し、常に現場を想定した指導を行いその内容に応じたカリキュラムをベースに策定している。	即戦力に繋がるための技術が早期に学べるよう願います。 インターンシップ実習授業に際しては、関連サロンに協力をお願いし是非取り組んでもらいたい。 現場を離れて長い教員が現状の顧客ニーズ・技術に対応できる様、外部関係者を通じて現場のサロンオーナーとの意見交換会を開催し、即戦力に繋がるための助言を伺ってほしい。また研修等を受講し、お手伝いに終わるのではなく、意義のある研修として位置づけられる様、学校の整備を進めてほしい。	教育課程編成委員会の意見もうかがい資格取得の授業だけではなく社会に出て即戦力に繋がる実践的な授業をおこなっていく。 今後、インターンシップ実習はサロンと連携のうえ積極的に取り組んでいく。
	2 教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4	養成施設指定規則に定める課目に則り、卒業時に国家資格取得を目指すとともに、現場との連携を密にし、現場で求められる即戦力に繋がる技術が学べる内容を盛り込んでいる。		
	3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	3	接客授業では、挨拶・立札の実演や接客のロールプレイングを主な実習内容とし授業の目的として、印象や自分の行動について考えられるよう指導をおこなっている。教育課程編成委員会の意見をもとにカリキュラムの見直し編成をおこなっている。		
	4 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4	学校内の授業で第一線で活躍する講師から即戦力に繋がる技術が学べるが実務実習、校外実習については取組ができていない。		
	5 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	4	学校関係者評価委員会に授業評価をお願いしている。		
	6 関連分野における実践的な職業教育(インターンシップ・実技・実習等)が体系的に位置づけられているか。	3	全課目において評価が3以上であることを必須とし、最終的に校長、学年主任、担任事務局長で構成する卒業・進級判定会議の議を経て決定する。		
	7 授業評価の実施・評価体制はあるか。	4	通常の授業とは別に資格取得が可能なACADEMY授業を開講し受講を推奨している。		
	8 職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか。	4	長年、教壇で教育に携わってきた学術機関の有職者から日々の授業の課題点に対し助言をもらっている。		
	9 成績評価、単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4	企業等と連携し優秀な教員確保のために情報交換や意見交換の場を設定している。		
	10 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	3	2年目までの教職員対象に1年間携わった授業生徒指導に対しグループ討議をおこない、各々が持つ課題を具現化し学術機関の有識者から助言をもらう『若手教職員のためのスキルアップ研修』を開催している。		
	11 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	4			
	12 関連分野における業界等との連携においてすぐれた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか。	4			
	13 関連分野における先端的な知識・技術等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか。	3			
	14 職員の能力開発のための研修等が行われているか。	3			

項目	評価の項目	評価	自己評価委員会評価コメント	学校関係者評価委員会の提言	今後の改善策
IV 学習成果	1 就職率の向上が図られているか。	4	理美容サロンの新規採用の求人もおおくってはきたが、スタイリストの求人が多くアイリスト、ネイリストなど美容部員の採用は厳しく求人も少ない状況である。学校として厳しい中でも卒業生全員に対し個別面談、面接練習等の指導をオンラインも活用しておこない今年度も、高い就職率を維持することができた。	インターンシップ授業やサロン体験、就職内定後の研修等が逆に学生の就職意欲を減退させる場合もあるので、実施にあたっては、サロンとの連携を密にし、内容について十分な検討を心がける。	就職担当教員を中心にサロン見学をおこなうサロン先の選定については就職意識がさがらない店舗でおこなうよう取り組んでいく。 発足したOB会で定期的に情報発信し学校に対し協力支援をお願いする。特に就職の面で現場の生の声を生徒たちに伝えることができるよう体制づくりを行っていく。
	2 資格取得率の向上が図られているか。	4			
	3 退学率の低減が図られているか。	3		結成したOB会とも連携強化をお願いする。	
	4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	3	海外で活躍する卒業生による職業講話を実施し生徒に理美容に対する職業観の養成を図るなど卒業生と連携した取り組みをおこなった。		
	5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか。	4			
V 学生支援	1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	学校から就職先の紹介を希望する生徒と面談し希望に応じた就職先を紹介している。		昨年度も進展させることはできなかったが、心理カウンセラーの導入も含め、学生の心理的相談に乗れる仕組みの強化を図る。 修学支援制度、奨学金等、新たな問合せの増加が予測されるので、事務局だけでなく教員も平易なレベルであれば回答できる様、折に触れ校内の勉強会を開催する。
	2 学生相談に関する体制は整備されているか。	4	生徒からの相談は、ゆっくり話をきき、電話相談でも対応し常に一人にしない環境づくり体制を構築しています。また、タイムリーなタイミングで保護者と密に連携できる様、教員間での連携も強化する。	表だって表現されない学生の心の悩みを早くつかみ、早期に解決するかが課題。学生が気軽に相談できる体制づくりをお願いしたい。	
	3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4		今後の生徒募集という意味合いでも、修学支援制度の対象であるか否かは専門学校の行く末を大きく左右すると思われる。	
	4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	4	修学支援校として継続して申請手続きをおこない、学費払いについても本来、半期払いのところを希望者には日本学生支援機構奨学金の貸与を条件に月次分割払い対応など経済的な支援体制を整備している。		
	5 課外活動に対する支援体制は整備されているか。	4			
	6 学生の生活環境への支援は行われているか。	3	課題活動としてダンスサークルを結成し日々練習に励んでいます。レッスンは外部講師にお願いし今後は大会にも参加し参加生徒のモチベーションアップにむけて取り組んでいる。		
	7 保護者と適切に連携しているか。	4			
	8 卒業生への支援体制はあるか。	4			
	9 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか。	4		大阪府下の高等学校でガイダンス授業をおこなっている。	

項目	評価の項目	評価	自己評価委員会評価コメント	学校関係者評価委員会の提言	今後の改善策
VI 教育環境	1 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	3	備品の入替えなどおこなったがあべのポンテ本校舎は、年数が経過しているため施設に痛みがでているところがある。	海外研修の挙行には十二分に注意するとともに、保護者の理解・同意を必ず得てもらいたい 災害発生時の対応訓練は授業の合間でも継続して行ってもらいたい。また、可能であれば防災関連の備品も準備して頂きたい。	設備全般のチェックの機会を設け、優先順位を組みながら、予算組みし、宮繕を実施していく。 申込者には必ず保護者の署名をもらうようにする。 地震対策として学校備え付けの備品類の再チェックをおこなっていく。
	2 学内外の実習施設・インターンシップ・海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	4	今年度は、ロンドン研修を実施した。今後も海外研修をおこなっていく。		
	3 防災に対する体制は整備されているか。	4	阿倍野区にある「あべの防災センター」を視察。地震発生時の避難先、対応を学習する。		
VII 学生の受入れ募集	1 学生募集活動は、適正に行われているか。	4	AO入試等における専各連からの指導を遵守し、適正な学生募集活動を行っている。	募集パンフレットだけでは、伝えにくい面があるが、個別相談会なら高校生に学校の特色をより詳しく説明することができるため積極的に取り組んでもらいたい。 ホームページもリニューアルされたようなのでより多くの生徒に関心をもってもらえるよう広報活動をお願いしたい。	ILINE.、インスタグラムも積極的に活用していく。 提言頂いたホームページもこれまでどおり活用していく。
	2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4	コロナ禍以降個別相談を積極的におこない学費の説明、当校の理念に基づく授業内容をこれまで以上に伝えることができた。		
	3 学納金は妥当なものとなっているか。	4	今年度は成果発表の場としての校内イベントが開催し生徒のモチベーションをあげることができた。		
VIII 財務	1 長中期的な学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4	財務については会計士の指導のもと専任の担当者により、適切に処理されている。	適切・正確な処理を心がける。	理事会・評議委員会において予算執行を精査し、健全な財務体制を維持する。
	2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4			
	3 財務について会計監査が適正に行われているか。	4			
	4 財務情報公開の体制準備はできているか。	4			
IX 法令等の遵守	1 法令・専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか。	4	個人情報保護の管理を強化する。	オープンキャンパスやイベントの際の外部からの参加者に対する写真掲載には十分注意を払っていると感じるが、在校生に対しての対応はどうか	集合研修の難しい状況下ではあるが、折を見てコンプライアンスの研修を行い、より周知徹底する。 学籍管理システムの他、情報システム全般については、管理権限を明確に定めて運用している。
	2 個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか。	4	ブログ、フェイスブック、インスタグラム等への学生、高校生の指名・写真掲載において事前に許可を取る等、細心の注意を払う様徹底する。		
	3 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	4	ゴミ箱の数を減らし、シュレッターを使用する習慣づけをおこなっている。		
	4 自己評価結果を公開しているか。	4	リモート授業が増えることにより通信環境のセキュリティを強化している。		
X 社会貢献 地域貢献	1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4	校友会主催でウクライナ支援としてチャリティパレエコナートを開催した。1,000名以上の方に参加いただき売上げをウクライナ大使館、堺市に寄贈することで社会貢献、地域貢献を行うことができた。	チャリティパレエコナートは社会貢献活動として素晴らしい活動であった。生徒にも平和の重要性を改めて認識させることができたと思う。	今後も社会貢献、地域貢献に積極的に取り組んでいきたい。
	2 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか。	3			
	3 地域に関する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか。	3			